

消防だより

No.90



Tokamachi Fire Department

平成29年7月20日

火の用心

特集

十日町大火と糸魚川大火

この写真は、十日町消防から糸魚川市大規模火災へ応援出動し、現場指揮本部到着時の様子です。火の粉がまるで吹雪のように降り注ぎ炎が街を覆い尽くしそうな勢いです。

写真：糸魚川市提供



十日町大火

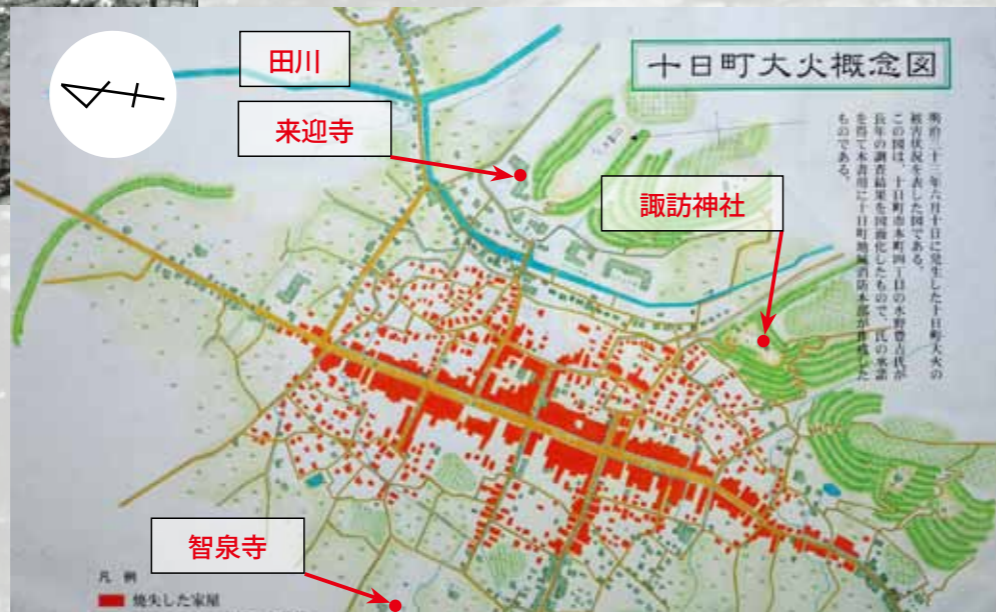
十日町市街地を焼き尽くした大火であり、当時の新潟新聞で「小千谷町まで火の粉を降らした」と報道された管内歴史上最大の大火である。



【十日町大火の概要】

発生日時：明治33年6月10日
23時30分過ぎ
燃焼時間：約24時間
焼損戸数：752戸
焼失面積：約250,000㎡
風：フェーン現象による強い南風

写真：消防史から引用



かつて十日町市でも大火を経験しています。明治33年6月10日に発生した十日町大火は、当時としては全国的にも未曾有の大火災で、市街地約千戸のうち約八百戸が焼失するという壊滅的な打撃を受けた火災です。

十日町の中心部をほとんど焼き尽くしたこの大火を、「千戸に余る町並みが、雲を焦がすような猛火により、一夜のうちに焼き尽くされ…」と記録しており、被害総額は、現在の金額で推定200億円という甚大な被害でした。

この二つの大火から、私たちが学ばなければならぬものは何でしょうか。

それは、強風下での失火は、大火という恐怖や大きな代償が伴うということです。

また、糸魚川大火では大惨事ながらも死者が出なかったのは、過去の大火から住民の強風に対する危機意識と、住民の普段からの近所付き合いによると言われています。私たちの地域も遠い先々、また大火が発生しないということは断言できません。万が一の事態に備え、大火から得た教訓を生かし、継承していくことが必要です。

このため、今後は強風への危機意識を十分に持ちながら、近所付き合い等で人と人とのつながりをはぐくみ大切に、いざというときの住民同士の連携・協力など、地域の防災力を高めておくことが今後さらに必要です。

糸魚川大火

糸魚川市では、地形の関係から強風が吹くことが多く、過去に何度も大火に見舞われており、今回の大火を「糸魚川市駅北大火」と称している。



まさかの光景

誰が想像できたでしょうか。黒い煙が海へ一直線に伸び、糸魚川の街の一面を炎が包み込む。鉄筋コンクリートのビルが燃え、火柱と化し、火災旋風で火の粉を巻き上げる。「耐火建物がまさか…」と、目を疑う光景でした。

流れる映像を見て、誰もが自分の家・集落と重ね合わせ、恐怖を感じたのではないのでしょうか。

「不注意」の火から

この大火は、糸魚川市駅北の飲食店でのコンロの消し忘れという「不注意」が始まりです。

平成28年12月22日(木)10時20分頃出火。「焼山おろし」と呼ばれるこの地域特有の強風にあおられ、延々30時間燃え続けた結果、焼損棟数147棟、被災エリアは東京ドーム1個分の約4万㎡を焼失させる大火災となりました。「不注意」という人的要因が、人々から奪ったものはあまりにも大きすぎました。

「強風」による飛び火

十日町大火も「雨が少なく町が乾いた中、強い南風にあおられ瞬く間に隣家に延焼し…」飛び火が遠くは大井田村（現在の四日町）の家屋まで達し、「一部燃え上がった」と記録しています。糸魚川大火では、最大瞬間風速27mを超える烈風を記録しています。

当管内でも風による飛び火延焼は度々発生しており、強風下で200m以上飛び火したこともあります。強風下での火災に特化すれば、平成16年の倉保ゆくら妻有の火災では台風風のさなかに火災が発生し、倉保大橋を超え火の粉が降り注ぎ、消防団を転戦配備し延焼を食い止めました。

「強風」大火」という警戒心

この二つの大火から、私たちが学ばなければならぬものは何でしょうか。

それは、強風下での失火は、大火という恐怖や大きな代償が伴うということです。

また、糸魚川大火では大惨事ながらも死者が出なかったのは、過去の大火から住民の強風に対する危機意識と、住民の普段からの近所付き合いによると言われています。私たちの地域も遠い先々、また大火が発生しないということは断言できません。万が一の事態に備え、大火から得た教訓を生かし、継承していくことが必要です。

【糸魚川大火の概要】

発生日時：平成28年12月22日
10時20分頃
燃焼時間：約30時間
焼損棟数：147棟
焼失面積：約40,000㎡（被災エリア）
最大瞬間風速：27.2m/s

写真：糸魚川市消防本部提供



救急

熱中症に ならないために！

- ◇ 運動・食事・睡眠で暑さに負けない体づくりをしましょう。
- ◇ こまめに水分と塩分をとりましょう。
- ◇ エアコンや扇風機を上手に使い、室温と湿度の管理をしましょう。
- ◇ 涼しい服装や、帽子、日傘で日よけ対策をしましょう。

熱中症の応急手当

- + 涼しい場所へ移動し、衣服を緩め、安静に寝かせる。
- + エアコンをつける、扇風機・うちわなどで風をあて、体を冷やす。



採用

消防士募集 (十日町地域広域事務組合職員)

◇ 募集職種・人数

消防士(上級又は初級) 若干名

◇ 試験方法

【第1次試験】

期日：平成29年9月17日(日)

試験：教養試験、消防適性検査、作文、体力試験

【第2次試験】

期日：10月中を予定

試験：面接試験

◇ 受験申込み

7月10日(月)～8月18日(金)

※詳細については、ホームページをご覧ください。消防本部及び消防署分署へお問い合わせください。

予防

住宅用火災警報器の 作動確認を！

現在普及している住宅用火災警報器の多くは電池式であり、その電池の寿命は10年が目安とされています。万が一の火災発生時に警報音が鳴らないことがないよう、定期的に作動確認を実施し、必要な場合は電池の交換又は警報器本体の交換を行い、適切な維持管理をお願いします。

救急

西部ドクターヘリ 運航開始

3月29日から新潟県で2機目となる、西部ドクターヘリが長岡赤十字病院に配備され、運航を開始しました。これにより、十日町管内まで約30分かかっていたが、わずか10分程度で到着できるようになりました。

ドクターヘリの最大の利点は、緊急患者のいる救急現場に医師、看護師をすばやく送り届け、すぐさま救命処置を行うとともに、適切な医療機関へ迅速な搬送が可能であることです。適切な治療が迅速に行われることにより、救命率の向上や後遺障害の軽減を図るために大きな役割と効果が期待できます。

赤色灯

十日町大火と同日の6月10日に糸魚川市消防団長の斉藤直文氏を講師に迎え、「糸魚川市駅北大火からの教訓」を演題に防災講演会を行いました。

講演の中で、「これだけの大火災で死者がでなかったのは、普段からの近所付き合いがあったからだ。」という話があり、ドキッとしてしまいました。都会ほどではないにしろ、「こ近所付き合い」が少なくなってきた昨今、家電が話しかけてくれる時代になりましたが、いざというとき手を差し伸べてくれるのはやはり身近にいる人間ではないでしょうか。手と手をとりあって、まだ見ぬ災害を乗り越えられる地域になることを願います。

吉楽匡紀



左から、十日町市樋口団長、糸魚川市斉藤団長、津南町大島団長

消防だより
火の用心



発行 十日町地域消防本部 〒948-0007 新潟県十日町市四日町新田1-4-4 番地
編集 総務課企画広報係 ■電話 025(757)0119 ■FAX 025(757)8499
ホームページ http://www.tokamachi-koukijip/ ■E-mail tfd119@tokamachi-koukijip